第 42 回(令和 6 年度 第 1 回)黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

■日　時　　令和６年７月５日（金）14：00～

■場　所　　黒部市役所 201・202 会議室

■出席者　　協議会委員 17 名

出席者名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第６条第２項第１号	地域公共交通網形成計画を作成しようとする市町村	黒部市長	武隈 義一	本人出席	会長
第６条第２項第２号	関係する公共交通事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	新庄 一洋	本人出席	
		黒部市タクシー協会長	神谷 慶志郎	本人出席	
		あいの風とやま鉄道株式会社 専務取締役・総務企画部長	助野 吉昭	本人出席	
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所長	高嶋 茂晴	所長代理 藤田 実	
		黒部市長《再掲》			
第６条第２項第３号	関係する公安委員会	黒部警察署長	池田 高彦	本人出席	
	地域公共交通の利用者 市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議会	大上戸 久雄	欠席	副会長
		黒部市民生委員児童委員協議会長	藤澤 義信	本人出席	
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会長	此川 昇	欠席	
		ウィメンズくろべ	髙橋 省子	本人出席	
		公募委員	下石 典江	本人出席	
	政策支援 アドバイザー	中央大学理工学部都市環境学科教授	原田 昇	本人出席	
	その他の当該市町村が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	新倉 孝礼	欠席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	大田 尊博	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	景山 隼人	本人出席	
		富山県交通政策局 地域交通・新幹線政策室交通戦略企画課長	有田 翔伍	本人出席	
		黒部商工会議所会頭	川端 康夫	本人出席	
		一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局 代表理事	川端 康夫	営業主任 石田 智章	
		ＹＫＫ株式会社 副社長 黒部事業所長	小林 聖子	業務推進グループ 渉外担当部長 吉田 晴彦	
		富山県交通運輸産業労働組合協議会議長	石橋 剛	本人出席	
		宇奈月商工振興会	羽柴 進一	欠席	

■事務局：黒部市都市創造部都市計画課：小森部長、山﨑課長、西田主幹、中係長、田村主査、島﨑技師

NiX JAPAN 株式会社：植原、馬場、山根

会議次第

1　開　会

2　あいさつ（会長　武隈黒部市長）

3　報告事項

（1）経過報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料１
（2）役員の交代等について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料２
（3）令和５年度の市内公共交通利用者数について・・・・・・・・・・・・・・・資料３
（4）市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表の更新について・・・・・・・・資料４
（5）暮らしのサポート便実証運行事業（内山・音沢地区）について・・・・・・資料５
（6）前年度の意見に対する検討状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・資料６

4　議案

議案第１号　令和５年度収支決算について（監査報告）　・・・・・・・・・・・資料７
議案第２号　令和６年度収支予算（案）について・・・・・・・・・・・・・・・資料８
議案第３号　黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について・・・・・資料９
議案第４号　黒部市公共交通戦略推進協議会作業部会規程の一部改正について・資料 10

5　協議事項

（1）南北循環線の運行ルート等の一部変更について・・・・・・・・・・・・・資料 11
（2）グリーンスローモビリティの運行概要について・・・・・・・・・・・・・資料 12

6　その他

7　閉　会

開会

●定刻通り開会し、委員の変更について、事務局が紹介を行った。
〇進行：山﨑課長

あいさつ（武隈市長）

●会長よりあいさつを行った。

本日は、第 42 回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催したところ、委員各位におかれましては、ご多用の中、ご出席いただき感謝を申し上げる。

また、日頃より本市の公共交通施策にご理解・ご協力を賜り、心から感謝を申し上げる。

はじめに、３月 16 日に北陸新幹線金沢・敦賀間が開業した。当日は、にいかわプロモーション・オーガニゼーションによる「サクラ咲ク・フェスタ」や、黒部まちづくり協議会ワンコインプロジェクトによる「くろワンきっぷ出発式」が開催されるなど、黒部宇奈月温泉駅においても、北陸新幹線の延伸を盛り上げることができたと思う。今後も、北陸新幹線及

び黒部宇奈月温泉駅の利用促進を図るとともに、１日も早い大阪までの全線開通が実現されるよう、関係機関に働きかけて参りたいと思う。

また、黒部峡谷鉄道は、能登半島地震による鐘釣橋の落石被害で、本年は全線開通ができず、これに伴い、富山県は黒部宇奈月キャニオンルートの年内の一般開放・旅行商品化を見送るとのことである。黒部市としても、黒部宇奈月キャニオンルートは、北陸新幹線敦賀延伸に続き、絶好の誘客のチャンスと期待が大きかっただけに、大変残念ではあるが、安全対策を最優先に、早期の復旧を願うものである。

最後に、本日の会議内容は、「令和５年度公共交通利用者数」などの報告事項が６件、「令和５年度収支決算」、「令和６年度予算案」などの議案が４件、「グリーンスローモビリティの運行概要」などの協議事項が２件ある。

委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りたく思う。

報告事項

（１）経過報告
（２）役員の交代等について
（３）令和５年度の市内公共交通利用者数について
（４）市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表の更新について
（５）暮らしのサポート便実証運行事業（内山・音沢地区）について
（６）前年度の意見に対する検討状況について

●事務局より、資料１、２に基づき、経過報告及び役員の交代に関する報告、資料３～６に基づき「令和５年度の市内公共交通利用者数について」「市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表の更新について」「暮らしのサポート便実証運行事業（内山・音沢地区）について」「前年度の意見に対する検討状況について」の説明を行った。

○下石委員

資料６、主な意見の「路線バス・コミュニティ交通の運賃制度の見直しの検討、第 40 回報告事項（２）路線バス事業の収支状況について【資料２】」であるが、免許返納者に加え、その家族の割引を検討してほしいという意見を前年度に申し上げた。その返答として「事業を実施した場合の費用は、相当多額になることが見込まれ、現時点では実施は難しいと考えている。」と記載があり、この意見は前年度に何度か議題に上った内容であるが、この協議会の場では口頭での詳細の説明が無く、書面での回答のみで済ませたことは、協議会としての協議の主旨から大きく外れていると思う。黒部市公共交通戦略推進協議会規約の中でも、第８条３項に「会議の議決方法は、全会一致を原則とする。ただし、意見が分かれる等議長がやむを得ないと認めるときは、出席した委員の過半数で決める」と記載があるが、前年度、様々な意見が何度も出たにも関わらず一度も採決されていないと感じている。協議会で協議も十分にされず、後日意見を求められる書面が届き、それをもって協議とされるのは納得できない。

協議と採決をする方法が明瞭でなく、補助金を得るために書面を整えるためだけの協議会になっていると感じるが、協議会のあり方自体を見直していただけたら、さらに多くの意見

を集めることができ、本当の意味での協議ができるのではないか。事務局はこの協議会自体のあり方をどのように考えているのか、また公募委員の参加理由について回答いただきたい。

○事務局

協議事項として提案をさせていただく際には、費用対効果や課題、実現するための費用や取組を十分に検討する必要がある。今回の資料は現時点での対応状況として整理しており、これまでに挙げられた意見については引き続き検討をしていく必要があると考えている。

協議事項については、この協議会の中で提案させていただき、委員の皆様からご意見を受けて修正し、その都度、委員の皆様の承認をいただきながら、最後に確定している。

○下石委員

市民の立場としては、何をもって承認しているのかが分からない。例えば議長と市役所で協議し、その後委員も交えたうえで採決するなど、どのような議決方法なのかが不明である。

○事務局

協議会においては、必ずしも挙手等で賛否を確認する方法でなく、意見の有無の確認や拍手承認により採決させていただいている。

○下石委員

収支や提出書面に必要な採決はしているが、それ以外の協議会で出た意見に対して採決がなかった。規約がある以上採決するのが当たり前だと思うが、規約は機能しているのか。協議会のあり方を見直せば、出てきた意見の協議も進むと思うが、どのような段階を踏めば採決に至るのか不明な状況で会議を続けることに意味を感じられない。

また、規約第 11 条にも「会議で協議が整った事項について」とあるが、どのような状態を協議が整ったと判断するのか。

○事務局

議長として川端座長に議事進行をしていただいているが、これまでの協議会で路線の見直し等を協議事項として挙げさせていただいた際は委員の皆さんにご意見をお聞きしている。

○下石委員

前年度協議会で提案をしたところ、その場では「検討する」と返答があったが、それ以降の協議会では議題に上がらず、今回の資料６で「現時点では実施は難しいと考えている。」と返答されている。かかる費用が大きいのであれば、具体的な金額を協議会で示す必要があると思うが、これまでに費用を提示したことがあったか不明である。

○事務局

資料６の対応方針については、言葉足らずな部分があるかもしれないが、これをもって検討しないとしているわけではなく、引き続き検討を進めていくというつもりで回答している。家族割引については、利用者の移動範囲などを精査しなければ必要な費用も判断ができない。

前回意見があった富山市の「おでかけ定期券」の取組の事例については確認したが、黒部市では到底、対応できない費用であると認識している。市内の移動だけなのか、それとも富山まで夫婦で行くのか等の割引の内容によっても当然費用が異なるが、少なくとも市内だけの移動でも相当の費用がかかるという現状を資料ではお伝えしたかった。

現時点では、割引が導入された場合の、利用者数の増加や利便性向上については精査できていないため、今後はそれらを含めて検討していきたいと考えている。

○下石委員

このようなできない理由等を委員の前で報告することが協議だと思う。これらの理想的な提案に対して、お互いに取り組めることを探っていくのが協議会ではないか。これまでそのような話合いはできていないため、提案について検討した結果を次の協議会で協議できる体制にしてほしい。時間に制限があることは理解しているが、割愛できる部分もあるため、協議の役目を果たせる協議会にしていただきたいと切に願っている。

○事務局

当然我々としては、提案について今後も検討をしていくと認識いただきたい。

意見の詳細な協議については、今回のご意見を踏まえ、無駄な時間を割く必要がないよう、事前に皆さんのご意見を書面等で確認させていただく方法でよろしいか。

下石委員ご自身はどのような意見か。

○下石委員

協議の時間が限られているのであれば、細かな意見について協議する場として地域の人や関係者での会を立ち上げてほしいと申し上げてきた。この協議会とは別に、市民と行政の意見交換を行い、お互いに歩み寄ることができる場が欲しい。

市民が利用しないため、公共交通が成り立たないことを市民に十分理解してもらうことが非常に大事である。

○事務局

資料６では、協議会でいただいたご意見等の経過を示しているとご理解をいただきたい。

また、協議会でいただいた提案を検討・実施するには、事務局だけでなく運行事業者等も関係してくるため、そういった方々と運賃や割引制度等の協議を行う作業部会等を設けている。そこでの協議のうえ、ある程度方向性が定まった段階で協議会に議題として提案し、皆さんから意見をいただき、再度検討を繰り返して協議事項が定まっていくと考えており、いただいた意見が全く無視されていることはないと考えている。

本件については、難しい問題もあり、すぐに協議会でご提案できるとは限らないが、別途作業部会等で着実に議論をしたうえで、あらためて協議会の場でご提案をさせていただきたい。

○川端座長

下石委員からは、協議会自体の運営の方法についてご意見をいただいた。これから先の運

営方法も含めて議題を協議会に出すルール等について話合いをしていきたいと思う。

先ほど説明があったが、交通事業者や関係者で集まり作業部会を開催している。作業部会では少人数なため、踏み込んだ話もしており、意見も多く出ている。細かい意見も含めた作業部会での協議のうえで、本日の報告に至ったが、利用者目線での配慮不足も確認できたため、作業部会に利用者を加える対応などを事務局と検討していきたい。

決して議論無しに、協議会に決議案を出しているわけではないことをご理解いただきたい。

○下石委員

資料６、「富山市のおでかけ定期券事業を参考にする」とあるが、予算がないのであれば最小限できることは何かを考えたい。例えば、免許返納者の奥さんも同等の手続を踏めば、半額で公共交通が利用できる案であれば、比較的低予算で実施出来ないか。

警察で運転免許を返納するともらえるフリーパスがあるが、免許返納者全てが申請しているわけではないと思う。返納者の家族も同様の手続をして割引ができれば、家族で出かけやすいのではないか。

免許返納者の数を把握できれば、仮に実施した場合の経費を把握しやすいため、具体的な予算を市民に提示いただき、その数値をもとに市民が公共交通を利用することで取組が実施可能となるように、行政側も一方的に費用を補助するのではなく、市民の意識を高める説明により、実施可能な方法を一緒に探りたいと思う。

○新庄委員

下石委員の意見に関連して、公共交通は主に移動の手段として考えられている中で、資料 18 ページのモビリティ・マネジメントの項目に、「公共交通の多面的な効果（健康面、環境面、経済面等）の視点から公共交通の利用を促す情報の発信に努める」とある。いかに公共交通の利用増加に繋げるかは、自分のメリットに公共交通の多面的な効果がどう関連づくかが重要だと思う。

県の地域交通戦略会議でも、「投資」と「参画」という２つの大きなポイントがある。「投資」は検討されているが、「参画」はあまりされていないと感じている。市民の参画を促すためにも公共交通の多面的な効果を周知し、利用していただくことが今後の発展につながると思うので、情報の発信を強化していただけたらと思う。

○武隈会長

今回初めて周知の取組として、広報くろべ５月号に４ページにわたって公共交通に関する記事を掲載した。その中で、運転免許返納時に受けられるサービスをまとめており、周知に取り組んでいる。

また、意見交換の場を設けるべきとのご意見だが、資料 19 ページ「地区の意見に対する対応」に、「石田地区ではバス石田三日市線のルート見直しに際して、広く地域全員の方を対象にした意見交換会を実施している。」と記載しているが、この取組では実際に約 20 人に参加いただいた。

これら広報での周知や住民との意見交換の場を設けるなど、新たに取り組んでいることに関しては評価していただけると事務局のモチベーションも上がり、富山地方鉄道やあいの風

とやま鉄道の駅をどうするかなど、今回の協議事項以外にも多くのことを抱えている中で、富山市の事例や家族割引についても本市で具体的に試算して検討へと話が進むように思う。実際、富山市の事例について事務的には既に試算しているため、次の協議会で具体的な費用を提示できるか確認したいと思う。

また、協議会での協議の件でも、全ての事項について協議すると時間がかかるため、いくつか重点を絞った中で限られてしまうが、事前に協議したい内容をいただけると、この場でも対応可能であると思う。

協議会のあり方については、川端座長とも議論して対応していきたいと思う。

○新庄委員

以前の黒部市の会議資料において、公共交通を利用しない理由は自家用車が利用できるからとの記載があり、公共交通の必要性について、回答者の 83%が「車が利用できなくなったときに利用するため必要」と回答があったことが印象的だった。いざ自家用車が利用できなくなった場合に、駅やバス停まで行く、あるいは経路図を把握する必要があり、突然公共交通を利用することは難しいと思う。

公共交通を使っていただけることは有り難いので、公共交通を利用する癖をつけておくことの必要性や、車に掛かる経費等の経済面、異常気象や二酸化炭素削減等の環境面などの多様な視点を盛り込み、周知を強化していただきたいと思う。

議　案

（１）議案第１号　令和５年度収支決算について（監査報告）

●事務局より、資料７に基づき、令和５年度収支決算について説明を行った。

●藤澤委員より、監査報告を行った。

○川端座長

意見がなければ、本議案について承認していただける方は拍手をしていただきたく思う。

●出席している委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

承認を得られたため、議案第１号については議案通りで承認とする。

（２）議案第２号　令和６年度収支予算（案）について

●事務局より、資料８に基づき、令和６年度収支予算（案）について説明を行った。

○下石委員

地域公共交通計画策定支援業務委託の歳出が０円となっているが、その理由は何か。

○事務局
　こちらは前年度策定を行った地域公共交通計画の策定にあたって業務委託をした際に要した予算である。計画の策定が前年度に完了したため、令和６年度は予算を計上しておらず０円となっている。

○原田委員
　資料の 19 ページにグリーンスローモビリティに関して「令和６年度に車両を購入し、令和７年度からの運行を行いたいと考えている。」と記載があるが、この予算も今年度の予算に計上されているのか。

○事務局
　協議事項でも説明をさせていただくが、検討しているグリーンスローモビリティの車両購入費は、この協議会の予算には計上しておらず、黒部市の一般会計で予算措置を行っている。

○川端座長
　その他に意見がなければ、本議案について承認していただける方は拍手をしていただきたく思う。

●出席している全委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長
　拍手全員ということで議案第２号については議案通りで承認とする。

（３）議案第３号　黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について

●事務局より、資料９に基づき、黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について説明を行った。

○川端座長
　意見がなければ、本議案について承認していただける方は拍手をしていただきたく思う。

●出席している全委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長
　拍手全員ということで議案第３号については議案通りで承認とする。

（４）議案第４号　黒部市公共交通戦略推進協議会作業部会規程の規約の一部改正について

●事務局より、資料 10 に基づき、黒部市公共交通戦略推進協議会作業部会規程の規約の一部改正について説明を行った。

○川端座長
　意見がなければ、本議案について承認していただける方は拍手をしていただきたく思う。

●出席している全委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長
　議案第４号については議案通りで承認とする。

協議事項

（１） 南北循環線の運行ルート等の一部変更について

●事務局より、資料 11 に基づき、南北循環線の運行ルート等の一部変更についての説明を行った。

○吉田委員
　社員の１人としても、無事に予定通りに工事が間に合っていただきたい。10 月頃にはＹＫＫＡＰ３０ビルも完成すると思う。
　変更事項は社員の通勤に必要な部分でもあり、当社も相応の負担をさせていただいている。当社としては、市民の皆様にもバス停が増え、有益な変更だと思うため、ぜひご了解いただきたいと思う。

○原田委員
　ＹＫＫＡＰ３０ビルは、市民が利用できる施設なのか。

○吉田委員
　ＹＫＫＡＰ３０ビルは一部一般開放する予定である。また、その隣の建材技術館も一般開放予定であり、既存の「丸屋根展示館」のように産業観光に利用いただくことができる。

○原田委員
　変更点はＹＫＫＡＰ３０ビル前にバス停が１箇所増えた点と、それに伴いルートを変更にした点でよろしいか。

○吉田委員
　その通りである。

○武隈会長
　建材技術館とかＹＫＫＡＰ３０ビルの緑地帯も市民に開放するのか。

○吉田委員
　全てフリーゾーンになる。今は工事中のため入れないが、以前はあったゲートがなくなっているため今は混乱を招くかもしれないが、工事が完了すれば、全て入れるようになる。ただし、緑地の完成は予定に間に合わず、今年度中の完成になるだろう。
　バス路線の変更へのご理解だけでなく、皆さんに気軽に利用していただけるように整備を進めたいと思う。

○武隈会長
　ＹＫＫＡＰ３０ビルや緑地が整備され、新しいバス停の増設により、バスの乗降者やビルの勤務者など、バス利用者がどのぐらい増加すると見込んでいるのか。

○吉田委員
　具体的に把握できておらず申し訳ないが、生地駅の利用者やＩ－ＴＯＷＮの周辺の歩行者、建材技術館の利用者による乗降客の変化は、ルートを変更して１年後には結果が分かるため、私たちも期待している。

○川端座長
　産業観光の施設として、建材技術館とＹＫＫＡＰ３０ビルの２箇所とも皆さんに見ていただける場所になる。多くの方にバスを利用して来ていただけるとよい。
　協議事項であるが、ルート変更に関して運輸局への申請があるが、ご意見がなければ、提案について承認していただける方は拍手をしていただきたく思う。

●出席している全委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長
　拍手全員ということで提案について承認とし、運輸局に認可の手続をしていただきたく思う。

（２） グリーンスローモビリティの運行概要について

●事務局より、資料 12 に基づき、グリーンスローモビリティの運行概要についての説明を行った。

○川端座長
　宇奈月温泉でＥＭＵが走行しているが、それに似たものが黒部の中心部の拠点を結び走行するイメージである。作業部会の中でも、中心商店街を時速 19 キロの車両が走行することで他の交通に妨げにならないかとの意見が出ていた。

○原田委員

資料で車両購入の記載を見ると事業を進めることが決定している様子であるが、基本的にはグリーンスローモビリティの運行が決定しているものとして発言すればよいのか。それとも検討によっては無駄遣いとして運行が難しいと判断される可能性があるのか。

○武隈会長

後者で考えていただきたい。

○原田委員

グリーンスローモビリティの成功事例は多くあるため、資料 32 ページにあるように、期待として記載すること自体は問題ないと思うが、実際に、中心市街地に車では移動できない高齢者がある程度いる中で、徒歩やちょいのり黒部を利用せず、そのうえで決して急がずゆっくり何箇所も拠点を回るような、グリーンスローモビリティを利用したいと思う人が何人いるかは気になるところである。

黒部市にはちょいのり黒部もある。グリーンスローモビリティの乗降範囲は、ちょいのり黒部の設置場所である。ちょいのり黒部を、くろべ市民交流センター「あおーよ」など設置のない施設に作る方法もある中で、グリーンスローモビリティを導入する場合とどちらがよいか。

また、中心市街地の回遊性を高めるポイントは歩きやすい空間づくりだと思う。各拠点が雨や段差等を気にすることなく歩きやすい道でつながっていたり花を飾ったり、歩行空間が整っていれば、拠点間は充分に歩ける距離だと思えるのではないか。あいの風とやま鉄道の駅まで相当の距離を歩いているという話であるが、東京の感覚であれば駅から市役所が見えるため問題なく歩けると感じる。

中心市街地に車で来た人は移動距離が短い場合でも車で移動する。そのため公共交通の利便性が高まった場合に、車からバスに乗り換えるとは考えにくい。また、公共交通の利用者は目的地から最も近い駅やバス停で降車しており、徒歩での移動が問題ない人がグリーンスローモビリティへ転換することは難しい。ちょいのり黒部が用意されている場所では、自転車が無料で使用できる。

グリーンスローモビリティの運行には、課題が多くあるため、利用ニーズや費用対効果を検証する「実証運行」をした方が良いのではないか。

昨日大野先生から、グリーンスローモビリティの導入は現実的ではないという連絡をいただいた。ちょいのり黒部はルートが決まってないため様々な場所に行くことができる。ちょいのり黒部の利用者が限られターゲットが異なり、さらに目的地を複数箇所回るニーズがある場合には、病院や市役所、駅などの各拠点を繋いで運行する可能性はある。いずれにしても徒歩圏域でちょいのり黒部もあるため、色々と検討する必要があると思う。

車両について、密閉式でエアコンが装備され、運行期間を制限している点では、ほかの地域での開放式の評価を踏まえたうえで検討されているように思う。

また、グリーンスローモビリティの導入後に、取りやめる結果の基準を作っておくべきではないかと思う。

○川端座長

先日の作業部会で、大野先生からも忌憚のないご意見をいただいた。

○武隈会長

こちらで想定していることだが、市民病院には朝に 1 日 500 人ほど来院があり、メルシーのエムズカードのポイントのボーナス日は多くの来客がある。メルシーと市民病院は徒歩で約 20 分かかる。自転車に乗れる人は自転車に乗ればよいと思う。

○原田委員

車で来ている人は車で行けばよいだろう。

○武隈会長

バスで市民病院へ午前８時半頃に行く方に、もう１箇所行っていただきたい。メルシーは高齢者の買物スポットで、くろべ市民交流センター「あおーよ」の、図書館等に寄りたい方もいるのではないか。また、黒部市自体が歩いて楽しいまちの構造になっていないと思うため、緑があるパッシブタウンの敷地内を散歩し、見ていただけるようにグリーンスローモビリティで繋ぐのはどうか。それと同時に、現在バスが通ってない東部児童センター周辺の人のためになってほしいと考えている。

また、前回の作業部会でグリーンスローモビリティの運行概要案について多くの意見をいただいたと聞いている。

そこで事務局では、午前中は市民病院へ向かう需要があるが、午後からは市民病院へ向かう需要が少なくなることから、東部児童センターや大黒町、椚町周辺等を発着し、午前と午後で大幅にルートを変える案を検討している。

実施や取りやめの基準についてだが、黒部市社会福祉協議会の関係団体が、外出によってどのように健康を維持するかという実証的な事業を今年度行っているそうで、これを含めて外出によって健康寿命を長くする効果を確認したい。経済面で利益を出すことは不可能だと思うため、健康面の効果もみながら実施できればよいと考えている。

○川端座長

グリーンスローモビリティの県内での事例で、富山市の岩瀬でＥＭＵに似た車両が走行しているが、運輸局はご存じか。

○影山委員

効果があればよい話のように聞こえるが、富山市岩瀬の事例については存じ上げないためコメントができず、申し訳ない。

運輸局は、導入にあたっての補助の案内や利用者と事業者へ取組促進の呼びかけをしていきたいが、現状実施するかどうかの議論であるため、話が先に進めばご案内させていただこうと思う。

○川端座長

警察としてはグリーンスローモビリティの導入によって交通規制等がかかってしまうことはあるか。

○池田委員

他の地域の方は勉強不足で分からないが、事故がないように運行していただきたいと思っている。

○川端座長

ＥＭＵは、観光客が歩いている中を周遊しており、手を挙げると車両が止まって、不特定多数の人を乗せるが、市内では拠点に設置された乗降場で人を乗せる方法だと思う。

○原田委員

回遊する需要がうまく出るかどうかだ。メルシーから市民病院までグーグルマップでは歩いて９分となっている。市民病院の中も広いため、実際に到着するまでもう少しかかるかもしれないが、あまり遠くないように感じた。メルシーの表側からいっても 10 分ぐらいである。

○菅野委員

地元の自治振興会長とは話をされただろうか。最も心配なのは地元の利用だが、利用しようという意見は出ているのか。あまり言いたくはないが、三日市の人は乗らないのではないか。

三日市では活発だった女性団体の婦人会が無くなり、三日市をまとめる人がいなくなってしまったように感じるため、敬老会を中心に先導する必要があると思う。

私もくろワンきっぷに取り組んでいるが、ほかの地域と比べて三日市の利用者は少ない。振興会長は私と同級生だが、取組にあまり協力的ではない。

○武隈会長

主なターゲットは高齢者等の歩くのが困難な方を想定している。

○川端座長

高齢者等の方々をサポートするようなイメージだろうか。

○武隈会長

片道だけ等、部分的な移動にも利用してもらえないかと思う。

○石田委員

宇奈月温泉では、ＥＭＵが走行しているのを物珍しそうに見過ごす人が多い。その中でＥＭＵの利用者は、事前に調べたり聞いたり等をして、目的地を設定せず興味本位で乗車する人が最も多い。この理由は、利用者が観光客だからだ。三日市中心では、主に市民の方が利

用すると思われるため、一種の路線バスのような使い方が想定されるだろう。

グリースローモビリティには、高齢者の外出促進や健康促進効果、中心市街地の活性化等の効果もある。高齢者が散歩に出る際、車両の中で世間話をしたり風景を見たりして、都市部等で降りられて散歩されるといった利用があると面白いと思った。

○川端座長

宇奈月温泉の場合、地元の人はあまり乗車しておらず、移動する距離が見えてない中で、観光客の物珍しさからからの利用が多いのではないか。今回のグリーンスローモビリティはＥＭＵの使い方とは異なるのではないかと思う。

○下石委員

三日市の人は乗車しないという意見が出たが、例えば、正式に運行実施を決定する前に実証実験を行い三日市の方に使ってもらう等、身近なところで使い方のリサーチに協力を仰ぐような広報をすれば、こちら側とは違う使い方が見えるのではないか。また、別の場所に展開する時に何かヒントになるかもしれない。

最初は何台ほど走行させるのか。

○事務局

１時間で１回を１台で回遊する予定である。

○下石委員

１台あたりの費用はどれくらいか。

○事務局

今はまだ試算途中の段階だが、車両自体は２台買う予算を確保している。充電や走行距離の問題があるため、午前中に１台、午後に切り替えてもう１台で運行したいと考えている。

前回の作業部会で提示したルート案は、１周の走行距離が長くとも、便数が高頻度であれば乗車するかもしれないという意見もあった。それを踏まえて内部でも協議を行った際に、午前と午後に分けて、短い区間を頻繁に走行させてみてはどうかという意見が出たため、１か月ほどＰＲとともに実証実験を行って浸透させた場合、どのような反応になるのかと協議を行っている。

車両購入に向けた作業は進めさせていただき、車両の有効活用ができるように、少しずつ必要性があるものにしていきたいと思う。

○菅野委員

例えばイベントを行った際、乗車すると 100 円もらえる等のキャンペーンを実施しながら運行しないと利用は難しいと思う。

○事務局

その提案を含めて自治振興会長と話をして、進めていきたいと考えている。

○石田委員

話したい点が２つある。１つ目は「下石委員の提案」についてである。

下石委員は、ご主人は免許保有者でご家庭に車があるが、下石さんは運転されないため、ご主人が免許返納すると車を利用できない。移住者のため、ご親戚やご家族は近隣には全く住んでおらず、頼れる方がおらず、生まれも育ちも黒部市の私からすれば想像しがたく心配は想像を超えており、今後交通弱者になると考えると共感や同情をせざるを得ない。割引制度については、免許を返納した本人のみだけでは難しいと感じている。ただし、予算が必要なため、簡単ではないことは理解している。

先ほどの議論の中でもあったが、公共交通を利用するメリットには、健康増進効果や地域の賑わいなど様々な側面がある。独居老人への支援は、ヘルパーや社会福祉協議会のサポートなどの外部支援が多い。交通弱者に外出いただくことには様々なメリットがあり、福祉費用の削減や地域の賑わい創出などの多面的な考え方で捉える必要がある。公共交通のみで考えるのではないことを、皆さんの議論をお聞きして感じた。

２つ目は、新庄委員が発言された「公共交通を急には利用しにくい」ことである。経済的なメリットや二酸化炭素排出削減効果などの経済面を切り取ることでチャンスがあると感じた。例えば、小・中学生の長期休みに、学校から年間にかかる各家庭で車のコストや時間、二酸化炭素排出量を書き込むワークシートの宿題を出していただいてはどうか。加えて、通勤や買物を公共交通に置き換えた場合の費用や二酸化炭素排出量、燃費性能が全て１枚で分かるシートを配ることにより、児童・生徒は、親に車の値段などを確認することになる。これらを実施すれば、家庭の何十件に１件は考え方が変わるのではないか。

この２つの意見については、本市が４路線も鉄道がある極めて珍しい環境のため、公共交通のあるべき姿を意識いただき、観光資源としても観光客に体験いただき喜んでいただける環境になればよいと思い発言した。

○原田委員

石田委員が発言されたのは、モビリティ・マネジメントのことである。黒部市では、コミュニティ通信「公共交通で行こう！」などを通じて、健康面やコスト削減効果の情報発信を行うモビリティ・マネジメントについて、相当以前から意識し様々な取組を実施してきたと感じている。もし、それが疎かになっている場合には、着実に取組を進める必要があるだろう。

当初、モビリティ・マネジメントは、車と比べ公共交通を利用すると健康に良いこと等に影響を受け、車利用が２割程度減少すると言われていた。本気で行う場合は着実な取組が必要であり、より多くの小学生に考えてもらえるように実施する必要がある。

あるいは、行動プラン法を用い、例えば都心の通院後の立ち寄り条件を考える「トラベルプラン」を立ててもらい、社会実験にまでは至らないが、実際に利用するかを考えてもらう方法もある。これは、コミュニティ通信やＧｏトレで既に実施済であるが、さらに努力してもよいように思う。

○川端座長

グリーンスローモビリティついては、次回も引き続き議論をしていきたいと思う。

その他

●その他の事項について意見を確認した。

○菅野委員

黒部ワンコインプロジェクトに関連してお話したい。

お手元のチラシにあるように「ローカル鉄道とまちづくりを楽しむ講演会＆ワークショップ」は全４回を開催予定であり、くろワンのスタッフも登壇予定である。富山県西部の城端線・氷見線では上下分離方式が検討されるなど取組が進んでいるが、西部ばかりではなく東部の新川地域でも努力している取組を聴講いただきたいと思う。

くろワンを開始当時、電車を利用していた子供は、現在 22～23 歳になっており、しばらくするとお子さんを連れて電車に乗る世代になる。講演会には、中・高校生にたくさん来ていただき、マイレール意識を高め、地元でさらに盛り上げたく思い講演会を企画している。

７月７日は上坂副市長、２回目の８月はあいの風とやま鉄道の取締役もされる中川先生、に講演いただく。電車は、高校生には非常に便利であり、ぜひ電車で来場いただきたい。地元の桜井高校や富山市内の富山第一高校の生徒にも参加いただき、第４回目にワークショップを実施したいと思っている。３回目は、新幹線市民ワークショップを立ち上げた堀内元市長に講演をお願いしている。くろワン開始当時は非常に多くの勉強会を実施していたが、最近は勉強会が少ないことから、この機会に勉強会を実施したく企画している。

本日出席の皆様には、参加の声掛けをお願いできれば有り難い。ＰＲする機会があまりないため、県内の地鉄各駅には全て掲示している。掲示許可いただける場所があれば、お声がけをぜひよろしくお願い申し上げる。

閉会（事務局）

●事務局

以上をもって、第 42 回黒部市公共交通戦略推進協議会を閉会する。事務局として皆様の意見を真摯に受け止め、次回以降も着実に対応していきたい。ご多用の中、ご出席いただき感謝を申し上げる。

以　　上